



「高品質のいちごを提供したい」その思いは確かなおいしさへ…

日光ストロベリーパーク代表取締役  
 ぬまおひろあき  
**沼尾 浩明さん**

**第47** 日本農業賞「個人経営の部」(※)で大賞を受賞した、株式会社日光ストロベリーパーク代表取締役の沼尾浩明さんを紹介いたします。

沼尾さんは、平成20年に観光いちご園日光ストロベリーパーク(芹沼3581)を開園しました。「お客さまにおいしいいちごを食べてもらいたい」と、さまざまな工夫を凝らしたいちご園はリピーターが多く、日本全国さらには海外からも来場者が押し寄せ、現在年間4万5,000人が来場する日光の人気観光スポットとなっています。

それから、減農薬栽培で育てていることです。いちご生産では県内での「リンク・テイ」(※)の認証を受けました。安全で安心かつ、おいしいいちごを提供しています。また、観光いちご農園として常にお客さまに喜ばれるよう施設作りをしています。車いすの方でも楽しめるように通路の幅を広くするなど、バリアフリー化をしています。小さいお子さんでもいちごを摘み取れるように、可動式の柵を設置しているハウスもあります。さらにいちご狩りを楽しんでもらえるよう、施設内で音楽をかけたりにしています。

**受賞した感想を教えてください**

とにかく、驚いています。観光いちご園を開園して、10年が経ちます。失敗もありましたが、試行錯誤し改善してきたことが評価されたと思います。

**園の特徴は？**

まず、不耕起栽培を行なっていることです。あえて、耕さず栽培を行っています。

**いちご栽培で難しいことは？**

肥料の調節が難しいです。調節を間違えてしまうと、いちごが赤黒くなってしまう。さらに温度管理もいちごの品種によって温度を設定し、常にいちごの品質を最高の状態にしています。

**栽培以外で取り組んでいることは？**

園のいちごを使ったオリジナルのいちごジャムやいちごソースを販売しています。



オリジナルジャムとソース

**今後、取り組みたいことは？**

また、県内のいちご農家に親株の供給をしています。その作業を毎年3月から夏場にかけて行います。従業員もいちごのシーズンだけではなく、年間を通して働いてもらっています。

**インタビューを終えて**

「お客さまが「おいしい」と喜んでくれることが一番の励みになる」と語る沼尾さん。常においしいいちご作りを手を抜かない姿勢に感動しました。

いちごは、果肉がしっかりとしっていてとても甘く、沼尾さんの熱い思いが伝わる味でした。

※日本農業賞：日本農業の確立を目指し、意欲的に経営や技術の改善に取り組み、地域社会の発展にも貢献している農業者、または食や農の担い手として先進的な取り組みをしている個人・組織集団に贈られる賞

※Link-T…節減対象農薬と化学肥料(窒素成分)の使用量を通常に栽培する場合の半分以下に減らして栽培した農産物  
 ※開園時間…午前10時～午後4時(最終受付は午後3時30分)・休園日…火曜日(祝日の場合は営業)